

宮古の風



～ 新しい風は東から ～

研修のねらいは先生方の指導力向上であり、その先にあるのはすべての子どもたちと学校のウェルビーイング実現です。どの研修も、その実現を期待させる先生方の熱量のおかげで充実した研修になりました。ありがとうございました。すべての子供たちに予測困難な時代を生き抜くための「学び続けられる力」を育成するために、私たち教諭は学び続ける姿勢をもちたいものです。文責：荒木

【今年度の基本研修が終了しました】

今年度も、皆様のご理解とご協力のおかげで基本研修を計画通り進めることができました。教育事務所実施の基本研修が、研修者の先生方と各学校のニーズに応えるものになるよう、今年度の成果と課題を振り返りながら次年度の計画を立てていきます。

【初任者研修】

一般研修を2回、授業研修を3回実施しました。一般研修の「先輩教員から」では、山田町立山田小学校 村上 瑞希 教諭、宮古市立河南中学校 久保田 穂佳 教諭から、ご自身の経験談を交えながら初任者への助言や激励をいただきました。

授業研修では、先輩教員（宮古市立磯鶏小学校 鈴木 花奈美 教諭の「理科」、山田町立山田中学校 橋浦 公一 教諭の「道徳」（動画視聴））の授業を参観し学びを深めました。最後の授業研修では、初任者を代表して宮古市立宮古西中学校 高橋 遼 教諭・吉田 羽菜 養護教諭に提供していただいた「学級活動（2）」の授業を通して、授業づくりや個に応じた指導の進め方について学び、実践的指導力の向上を図ることができました。

高橋 遼 教諭による授業の様子



【2年目研修】

一般研修では、宮古保健所主任保健師から「メンタルヘルス不調の要因と対処」について講義いただき、学びを深めることができました。

授業研修では、岩泉町立小本中学校 小野寺 汐音 教諭の「学級活動（2）」の授業参観や、講義・演習を通して「特別活動の指導と授業づくり」について学びを深めることができました。特別活動を通して育成を目指す資質・能力や学級活動の内容、学級活動（2）の授業づくりについて学んだことを活かして実際に行う授業を構想し、所属校での実践に繋げました。

小野寺 汐音 教諭による授業の様子



【教職経験者5年研修講座】

一般研修では、5年の教職経験を踏まえながら、「復興教育」や「コミュニティ・スクール及び教育振興運動」、「児童生徒のメンタルヘルス」、「自殺予防教育・いじめや不登校対応の組織的な進め方」について、学びを深めました。

授業研修では、道徳教育・道徳科、特別活動の指導についての講義・演習を通して、理解を深めました。また、協議では、目標等を立てる学級活動の前後の働きかけを含めた授業づくりについてグループで構想、ポスターセッションを行い、実践的指導力の向上を図りました。

5年研 ポスターセッションの様子



【中堅教諭等資質向上研修講座】

一般研修では、宮古市立津軽石中学校 畠山 有美 養護教諭、山田町立山田小学校 福永 亜紀子 栄養教諭の2名に参加していただき、「様々な立場の同僚と連携して取り組む学級・学年経営、多様性と包摂性のある学校のあり方」について、講義を通して学ぶことができました。職員間での連携の大切さや、中堅教諭としての在り方等について考えを深められました。

公開研究会参加研修では、高等学校・特別支援学校の先生方が集まり、公開参加での気付きや疑問について話し合い、自身の授業改善の取組について考えを深めることができました。

いわての復興教育計画のさらなるブラッシュアップを！

今年度、多くの学校に県の復興教育推進事業に取り組んでいただき、その成果として「体験を通じた意識の高まりが自分の行動を考えるきっかけにつながっている」ことが挙げられました。これは、事前事後の取組・地域に根差し地域と連携した活動・学びを発表する機会の充実が背景にあると感じます。今後の課題として、「震災後15年が経過し、震災後に生まれた児童生徒が自分事として震災の教訓を実感するためには、実態に即したさらなる教育計画の工夫が必要」なことが挙げられます。下記に示したのは、目指す資質・能力の明確化や教職員間の共通理解、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいた復興教育全体計画の見直しなど、「いわての復興教育」プログラムに基づいた復興教育計画を作成する上でのチェック項目です。自校の取組について振り返り、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材育成」のために、来年度の復興教育全体計画、復興教育年間指導計画を作成する上での参考にしてください。

① 学校経営への位置付け、組み立て方

【チェック項目】 できているものにチェックしてみましょう

<input type="checkbox"/>	【令和7年度の成果と課題の確認】 設定した重点に照らし合わせて、評価し、改善を図る。どの時期に（単元）に、どれだけの時間を使って、どのような教育活動を展開したか、また、その活動を通して、どの程度まで子どもたちの学びを高めることができたか、成果と課題を確認している。
<input type="checkbox"/>	【学校経営の基本方針への位置付け】 「いわての復興教育」の目的（郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成）に触れている。
<input type="checkbox"/>	【経営の重点への位置付け】 各校が設定した本年度の重点の中に、教育的価値一覧表を参考にしながら、自校の復興教育を位置付けている。
<input type="checkbox"/>	【目指す子どもの姿について、全職員で共通理解】 現在の子どもの実態を踏まえ、復興教育を通して、目指す子どもの姿について確認している。
<input type="checkbox"/>	【「具体的項目」と「教育活動」との結び付け】 具体の21項目と教育活動を結び付け、学校、家庭・地域、関係機関・団体等が一体となった取り組みとなっているか確認している。

② 「いわての復興教育」の大切な視点

<input type="checkbox"/>	【「ひと・もの・こと」との関わりの中から学ぶ】 復興教育推進事業、防災に関する講演会、地域の方との関わり等を意図的に計画し、個人の探究課題の解決等のプロセスを構築できたか確認している。新たな課題に向かって探究していくというプロセスを経て、「思考力・判断力・表現力」の育成につながっているか確認している。
<input type="checkbox"/>	【組織的・有機的指導】 各学校の教育活動として組織的に取り組むとともに、目標達成に必要な教育内容を教科横断的な視点で有機的に指導できているか確認している。（学習や活動等をつなぐことで、復興教育で目指す資質・能力の育成が図られているか確認している。）
<input type="checkbox"/>	【学校の実情に応じた内容】 子どもたちの心身の状態、学校や地域のおかれている状況や環境及びニーズを踏まえ、学校、家庭・地域、関係機関・団体等と連携し、ふるさとへの誇りや愛着を育てる取組が計画されているか確認している。（地域住民とのつながり、地域のよさを再発見）

『いわての復興教育』プログラム 第3版（平成31年3月 岩手県教育委員会）より

「学校防災アドバイザー派遣事業」・「いわての復興教育サポーター派遣事業」活用を！

学校防災アドバイザー派遣事業は、防災に関する専門家を学校に派遣し、危機管理マニュアルや避難訓練などに対する助言、学校と家庭・地域の連携体制の構築への助言、安全教育のあり方への指導・助言を行うことによって、児童生徒等の安全確保に向けた体制の充実を目的としております。今年度は、宮古市立磯鶏小学校、宮古市立第二中学校、岩泉町立小川中学校に活用していただきました。児童への講話・演習アドバイザー派遣による事業を教育過程上に位置付け、ねらいをもって行うことで、身に付けさせたい資質・能力の育成にもつながります。

また、「いわての復興教育サポーター派遣事業」は、震災当時を知る退職した教職員を、学校のニーズに合わせて、授業や研究会等の講師として派遣することにより、震災の事実と教訓の語り継ぎや伝承活動を推進し、岩手の未来を担う人づくりに資することを目的としており、今年度は宮古市立高浜小学校、岩泉町立小川中学校（3月実施予定）に活用していただきました。

是非、来年度の計画に「学校防災アドバイザー派遣事業」・「いわての復興教育サポーター派遣事業」の活用をご検討下さい。